

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回社会教育委員会議
開催日時	令和5年12月25日(月)午後2時～4時30分
開催場所	所沢市役所6階 604会議室
出席者の氏名	別紙のとおり
欠席者の氏名	別紙のとおり
説明者の職・氏名	
議 事	(1) コミュニティスクールのモデル校取り組みについて (2) 公民館とまちづくりセンターの一元化の現状について (3) 入間地区社会教育協議会について (4) その他
会 議 資 料	資料1-1: コミュニティスクール説明資料(松井小学校) 資料1-2: コミュニティスクール説明資料(椿峰小学校①) 資料1-3: コミュニティスクール説明資料(椿峰小学校②) 資料1-4: コミュニティスクール説明資料(椿峰小学校③) 資料1-5: コミュニティスクール説明資料(椿峰小学校④) 資料1-6: コミュニティスクール説明資料(北野小・中学校) 資料2: まちづくりセンターとその未来展望 資料3-1: 入間地区社会教育協議会① 資料3-2: 入間地区社会教育協議会②
担 当 部 課 名	教育長 中島 秀行 教育総務部次長 池田 淳、スポーツ振興課長 三上 佳明、所沢図書館 長 橋本 浩志、学校教育課 長谷川 義博 市民部まちづくりセンター担当参事 仲 正之、松井小学校長 市川 重 彦、椿峰小学校長 森泉 周治郎、北野小学校長 木村 淳、北野中学校 教頭 久保田 勇士 教育総務部社会教育課 社会教育担当参事 糟谷 苗美、主査 宮岡 さやか、主査 有沢 法夫、 主任 高橋 幸大、主事 関口 岳、生涯学習推進センター所長 藤巻 幸 子 教育総務部社会教育課 電話 04(2998)9242

所沢市社会教育委員会議出欠一覧

令和5年12月25日(月)午後2時から 市役所6階604会議室

選出根拠※	氏名	備考	出欠席
学校教育 関係者	よしかわ えいいち 吉川 英一	所沢市立小中学校校長会 (向陽中学校校長)	○
学校教育 関係者	いしみね ゆうだい 石嶺 雄大	所沢市幼児教育振興協議会 (美原幼稚園 園長)	○
社会教育 関係者	かとう いちお 加藤 市男	所沢市公民館運営審議会 民生・児童委員	○
社会教育 関係者	なんば ひろゆき 難波 裕之	所沢こどもルネサンス実行委員会	○
社会教育 関係者	たけうち まこと 竹内 聡子	所沢市スカウト協議会 (ガールスカウト埼玉県第36団)	○
社会教育・ 家庭教育 関係者	はりゆう きよみ 針生 清美	柳瀬小学校図書ボランティア代表 柳瀬公民館保育スタッフ 柳瀬荘黄林閣(国重要文化財)管理人	○
社会教育 関係者	おざわ さだやす 小沢 貞泰	(元)北秋津小学校区 心豊かな子どもを育てる学 校と地域づくり連絡会議 北秋津ネット 議長	○
社会教育 関係者	こまつ ふみこ 小松 扶美子	所沢市連合婦人会 会長	○
社会教育・ 家庭教育 関係者	こやま ともひろ 古山 智啓	所沢市PTA連合会 会長	○
社会教育・ 家庭教育 関係者	こばやし ひでこ 小林 ヒデ子	民生・児童委員 人権擁護委員	○
社会教育 関係者	すどう とくこ 須藤 とく子	元市内小学校長	○
学識経験者	しか と かずのり 鹿戸 一範	秋草学園短期大学 准教授	○
学識経験者	おおぎはら あつし 扇原 淳	早稲田大学人間科学学術院 教授	○
学識経験者	ひらつか としお 平塚 俊夫	元市内中学校長	○
学識経験者	せき なおき 関 直規	東洋大学文学部 教育学科教授	○

※選出根拠＝所沢市社会教育委員会条例第2条

令和5年7月1日現在

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
教育長	<p>【1 開会】</p> <p>【2 あいさつ】 《教育長・議長があいさつを行った後、議長の進行により協議に入った。》</p> <p>先日の議会で公民館とまちづくりセンターの一元化の質問が出た。教育委員会として今までと変わりがないようにしっかりと進めていくとの回答をした。市民部と連携しながら、良い方向に進めたいと思っているので、皆様から様々な意見をいただきたい。</p>
議長	<p>【3 議事】</p> <p>(1) コミュニティスクールのモデル校取り組みについて まず議長より、補足があった。</p> <p>○ウェルビーイングについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的・社会的に良い状態のことを指す。 ・幸福には、人生満足感尺度ではかる獲得系の幸福と協調的幸福尺度ではかる協調系幸福がある。 ・グローバル化の社会の中で、獲得系の幸福が強くなってきていると感じる。コミュニティスクールを考える上では、協調系の幸福とのバランスが大事である。 <p>○コミュニティスクールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールを自動車に例えたい ・学校・家庭・地域・行政の4輪駆動。 ・車のボディは地域インフラや教育資源。 ・エンジンは地域学校協働活動。 ・コミュニティスクールで重要なことは、ハンドルを握る（学校運営協議会での熟議）ということである。 <p>その後、松井小学校、椿峰小学校、北野小・中学校より各モデル校の取組の説明があった。</p>
松井小学校長	<p>【松井小学校説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の学校開放運営委員会で地域学校協働本部に近い活動がすでに行

<p>樺峰小学校長</p>	<p>われていたことから、コミュニティスクールを導入することにした。学校に学校運営協議会を設置し、学校開放運営委員会を地域学校協働本部として進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール導入キックオフ会議で、熟議体験を行った。熟議では、「地域・学校・保護者で子どもをどう育てていくか」をテーマに、ビジョンを共有し意見交換を行った。これをもとに、松井小学校の学校経営方針に、「目指す子ども像」を設定した。 ・第1回の学校運営協議会の熟議では、保護者・地域アンケートをもとに、「あいさつ」と「不登校支援」という課題に焦点をあてることにした。 ・「不登校支援」については、「地域で解決するのは難しく、まずは大人が学ばなければならない」という意見があり、学校サポーター養成講座の中で、不登校支援の講座を開催した。不登校支援の講座は、校内研修で実施予定であったが、地域・保護者・教職員と一緒に学ぶことが出来る「地域に開かれた校内研修」とした。 ・学校サポーター養成講座の後に、学んだ成果を活かすために「松井小ふらっとサポーター」という制度を12月から開始した。サポーターは、教育活動の見守りや校内パトロールをしている。 ・第2回学校運営協議会での熟議の後に、教職員の任用に関する意見書を教育委員会へ提出した。 ・学校経営方針の見直し、地域による不登校支援、地域学校協働活動の充実が成果としてあげられる。課題として、教職員の意識の差、地域行事の在り方、教育課程の編成等があげられ、今後コミュニティスクールを通して取り組んでいきたい。 <p>【樺峰小学校説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の選定にあたっては、「①学校の教育活動、子どもたちの健やかな成長を支えているという当事者意識がある方」「②肯定的、未来志向の考えをお持ちの方」「③時には学校に厳しい意見を頂ける方」という3つの視点に重きを置いた。 ・「学校に関わるすべての人を笑顔に！」を樺峰小学校ランドデザインの最上位ミッションとし、そのための学校運営協議会の設置と考えている。 ・第1回の学校運営協議会の前に、キックオフ会議を行った。 ・「つばきのみらい通信」という学校運営協議会だよりを発行した。教職員にも当事者意識を持ってもらうことも目的としており、学校運営協議会で何が話されているか、今後学校運営協議会で何が行われるか等、働き方改革の視点も入れながら記事を作成している。 ・「子どもたちをまん中におくこと」、「『行きたい学校、帰りたい家庭、
---------------	--

<p>北野中学校教頭</p>	<p>住みたい地域づくり』につなげること」、「学びの好循環を生み出していくための会議」、という3つの願いを学校運営協議会で共有できたこと、その実現のために前に進めたことは成果である。</p> <p>【北野小・中学校説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会では、協議会でやりたいことのリストアップと分類化、焦点化や順序化を行った。回数が少ないということで、非公式の学校運営協議会も開催した。 ・学校運営協議会に関する保護者向け説明会を開催したが、参加者が少なく、認知度の低さを感じた。 ・課題の洗い出し、やりたいことのリスト化、企画立案・計画、実践、振り返りというPDCAサイクルを学校運営協議会でも確立させていきたい。 ・北野小中では、三か年計画で学校運営協議会を進めている。
<p>議長</p>	<p>この会議の後に、各委員から意見を募りたいと思っている。本日は、質問を中心にご発言いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>南陵中のコミュニティスクールを考えた時に、地域が広く、中学校単体でやるのか、小学校を含めてやるのか、課題がある。また、学校運営協議会の人数は、どのくらいの人数が必要なのか、気になっている。</p> <p>保護者になかなか浸透しない課題もあると思うが、保護者の中では、PTAの活動以外に新たな業務が増えるのではないかという懸念がある。わからない方にどのように説明をしていくか課題である。</p>
<p>学校教育課</p>	<p>単独校、複数校、それぞれある。来年度のモデル校だと、単独校が10校、小学校5校、中学校5校、複数校が5つ、それぞれの中学校区から1つとなって、15協議会で行う。</p> <p>今年度は、報酬対象の委員は8名で実施をしている。松井小では報酬不要の方も入っている。来年度は、報酬対象が単独校8人、3校は18人以内で実施を行う予定である。</p>
<p>議長</p>	<p>PTAの方の仕事が増えるのではないかという懸念があるのはよくわかる。PTA、地域活動も含め、すでに様々な活動がある。その活動をどのようにコミュニティスクールに位置付けていくかについて各協議会で議論があると思う。</p> <p>安全安心会議があって、それと何が違うという意見も出ていると聞いたことがある。それは、学校や子ども、地域が抱える一側面ではないが様々な</p>

<p>委員</p>	<p>視点から熟議を重ねる上で、それをどう位置付けていくかという事があると思う。</p> <p>地域や学校にはそれぞれの個性や歴史があり、それぞれの現場に即して考えることが大事だと考えた。</p> <p>社会教育の視点からそれぞれ質問をしたい。北野小中について、公民館の活用の意見が出されたとのことである。公民館を具体的にどのように活用すれば、学校・地域・保護者が双方向で共助を進めていける未来像に近づけるか、お考えを聞かせてもらいたい。</p> <p>椿峰小について、子どもたちを真ん中においてということ軸がしっかりしている。CSを進めていく上で理念の共有は重要なポイントと思う。42年目で愛校会ができるということであるが、目指すべき方向のために必要ということや何か不足していることや課題があるのかと思うが、補足をいただきたい。</p> <p>松井小については、学校開放運営委員会の存在が大きいと思うが、学校と地域が重なり合っている事例だと思った。学校開放運営委員会の意義や重要性は理解できたので、学校開放運営委員会側からみた課題について、説明いただきたい。</p>
<p>北野中学校教頭</p>	<p>委員会のメンバーに公民館長が一人いる。地域の事を良く知っているのので、人や組織を紹介してくれるということで、頼りにしたいと考えている。公民館からも課題を共有いただくこともあり、学校・地域・公民館が双方向で課題を共有し解決するような取り組みができればと思っている。</p>
<p>椿峰小学校長</p>	<p>愛校会の立ち上げについて、地域の方たちとの関わりということがある。コロナで関わりが失われた時期もあったが、椿峰小では以前から九九や習字を教える地域のボランティアが活動していた。最近ではコーラスグループの方たちが学校を利用して練習をしていて、子どもたちに歌声を聞かせてもらいたいとも思っていた。このような子どもたちをバックアップしたり、地域の方たちが参加したりするための組織として、愛校会のようなものを組織化したらという意見があった。行政からの予算が減らされてしまって、子どもたちのために必要なものが購入できないということもあるが、まずは子どもたちと地域の方との交流を復活し、学びの好循環を生み出していくことを目的にしていくということで作ることになった。</p>
<p>松井小学校長</p>	<p>学校開放運営委員会の課題を2点述べる。1点目として、松井小では、学校開放運営委員会が学校単独で設置されているので、学校運営協議会との一</p>

	<p>体的な推進を進めやすい。一方、地域全体の学校開放運営委員会に統一したほうが良いのではないかという意見もある。2点目として、地域のイベントや行事を、より多くの人に関われるような、ゆるやかなつながりで展開できないかという意見がある。</p>
議長	<p>来年度は、各中学校区に1つの協議会ができて、合計で15協議会となる。翌年には47校全てでコミュニティスクールが展開されていく予定である。このことを踏まえながら、今後人が入れ替わること、地域の事情が変わることもあるかもしれないので、様々な視点でご意見をいただきたい。</p>
社会教育担当参事	<p>各学校や協議会で委員の人選に苦慮されることが想定される。先日公民館長に対して、各協議会から委員の選出の相談があったら地域人材の紹介や推薦の協力をしてもらいたいと学校教育課より依頼をした。他市では、社会教育委員や様々な審議会委員に協力いただき、学校運営協議会等の委員を担っているようである。もし声がかかったら、ぜひご協力いただきたい。</p>
議長	<p>様々な面で協力の依頼があるかもしれないので、委員の皆様には是非協力いただきたい。</p> <p>以上で議題1は終了としたい。</p>
議長	<p>(2) 公民館とまちづくりセンターの一元化の現状について</p> <p>本日の資料にもあるが、コロナの影響により、公民館の利用者が減少していると考えている。世代交代がこれからのテーマとなってくるのではないかと考えている。</p> <p>それでは、市民部まちづくりセンター担当参事より説明をいただきたい</p>
まちづくりセンター担当参事	<p>【市民部説明】</p> <p>11月29日(水)に開催された説明会「まちづくりセンター その未来展望」の内容を基に説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって公民館は、活力の源であり住民の憩いの場であるので、これからも公民館機能を継続しながら、地域支援の拠点として地域課題に向き合うためにもまちづくりセンターの業務内容を充実させていきたい。 ・地域課題の解決には、コミュニティ推進業務と公民館業務の連携が鍵である。タイムリーに連携し、素早い対応と効果的な業務が実施するために、1つの部署で判断し、実行できる組織をつくっていく。 ・令和7年4月から公民館の所掌を市民部に移管し、一元的な運営を行うことを目標としている。社会教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法

<p>議長</p>	<p>律に則り、まちづくりセンターの条例を新たに制定する。条例には、まちづくりセンターが公民館の業務を実施することを明記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館運営審議会を市長部局で所管することを検討している。 ・職員の適切な人員配置は要望していくが、全まちづくりセンターに社会教育主事を配置することは難しい。職員の自主学習を組織的に位置づけ、全体の業務レベルを引き上げていきたい。 <p>この後、意見や質問をいただくが、会議が終わった後にも意見を募りたいと思う。</p> <p>まちづくりセンター担当参事は「公民館のしあさって」という本を読んだことはあるか。沖縄県の指定管理で運営されている特定公民館の事例が掲載されている。イメージしやすい事例が掲載されている。これからの所沢市の公民館の在り方のヒントになるのではないかと思うので、是非読んでもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>公民館の利用者が減ったという話があった。高齢者の中には話す場所が無いという方もいる。図書館だと静かに本を読むだけで、知り合いと話すことは出来ず、交流にもつながらない。公民館の中に、申し込まなくても利用できる部屋を開放してくれないか。知り合いと話をする場や、勉強できる場が求められるのではないかと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>学習室の開放とあわせて、公民館ロビーの活用も大事だと思う。ロビーのルールが厳しくなっている面もあると思う。</p>
<p>まちづくりセンター担当参事</p>	<p>生涯学習推進センターで自習室の開放をしている。各まちづくりセンターでも実施できないかということで、検討している。利用者数の減少に伴い、空いている場所の活用も検討していきたい。</p>
<p>議長</p>	<p>トコロん自習室を各まちづくりセンターにも展開していくということか。</p>
<p>社会教育担当参事</p>	<p>各まちづくりセンターでできる自主学習の場、居場所というものを展開してほしいと呼びかけをしている。できるところからできることを実施できる公民館から進めている。子どもと地域の共通課題として居場所づくりがある。公民館、地域、学校が関わっていくことで、それぞれの居場所を作っていけると良いのではと考えている。その第1歩として、自習室の展開を図っていきたい。</p>

委員	<p>地域の方々と一緒に学校を作っていくという視点が必要と感じた。子どもたちも将来的には「まち」「地域」を作る人材になっていく。学校だけでなく、まちづくりセンターを含め地域から、積極的にご意見をいただきながら、一緒になって地域づくり・学校づくりを進めていきたいと考えている。</p>
北野小学校長	<p>子ども達を育てていく上で、地域と学校が一緒になり、子どもたちと地域が喜ぶコミュニティづくりをしていきたいと考えている。公民館の事業の中で、子どもたちと一緒にできるもの、お互いにウィンウィンになれるものは何かの洗い出しをしていきたいと考えている。学校としても公民館の事業を取り入れ、一緒になって取り組んでいきたいと考えている。</p>
まちづくりセンター 一担当参事	<p>役割をきちんと決めて取り組んでいけば、子どもからお年寄りまでと一緒に地域活動に参加できると考えている。それをファシリテートしていくためには、社会教育の力が必要になると思う。まちづくりセンターとしても学校と地域と一緒に地域づくりを進めていければと思っている。</p>
議長	<p>公民館の利用者数は減少しているが、自治会館、町内会館、地区公民館で活動が増えているとも捉えられるのではないかと感じた。地域のまちづくりの拠点という事だけでなく、地区公民館の連携の部分に社会教育的視点を取り入れていただけると担い手の部分でヒントが得られるのではないかと感じた。以上で議事2は終了としたい。</p> <p>(3) 入間地区社会教育協議会について 社会教育担当参事より、資料3-1及び3-2に基づき、下記事項について説明をした。</p>
社会教育担当参事	<p>【社会教育担当参事説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入間地区社会教育協議会の事務局は各市町の社会教育所管部署が輪番で担っているが、事務局業務の負担が大きいという課題がある。 ・事務局の負担軽減に向け、主管課長部会を中心に議論を進めており、資料3-2のとおり、「埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会からの脱会を検討してほしい」という意見書を入間地区社会教育協議会へ提出することとなった。
委員	<p>入間地区社会教育協議会が埼玉縣市町村社会教育委員連絡協議会から脱会する案について、社会教育委員部会で先日説明を受けたところである。脱会した場合のリスクは検討されたのか。</p>

<p>社会教育担当参事</p> <p>議長</p>	<p>県全体では既に約半分の市町が加盟していない状況を踏まえると、リスク等の問題はないとの認識で進めている。</p> <p>県社連から脱会することで他地域との交流が無くなっていくことや情報が入り難くなることが懸念される。さらに今後、入間地区社会教育協議会から脱会する市町が出てくることも考えられる。この問題は慎重に進める必要がある。入間地区の13市町の結束を高めていくことも大事である。以上で議事3は終了としたい。</p> <p>(4) その他</p> <p>社会教育担当参事より、「二十歳のつどい」の実施、「議事1と2に関する意見のとりまとめ」について、説明をした。</p> <p>【4 その他】</p> <p>下記について、社会教育課（生涯学習推進センター）より報告をした。</p> <p>「①トコロん自習室の取組」</p>
<p>副議長</p>	<p>【5 閉会】</p> <p>今回の説明で皆さんの頭のモヤモヤが少しでも解消できて、様々な意見が出てくれればいいと思う。私たちは社会教育委員としての職責を担っていると思っている。公民館とまちづくりセンターの一元化に向けては、公民館の働きがしっかりと残された設置条例を考えてもらいたい。以上で、閉会とする。</p> <p style="text-align: right;">《以上で終了》</p>